

時代とハートを動かす

SEIKO

2017年3月期 年次報告書
2016年4月1日~2017年3月31日

Report



トップメッセージ



代表取締役会長 兼 グループ CEO

服部 真二

代表取締役社長

中村 吉伸

2017年3月期の経営成績について

2017年3月期の連結売上高は、前年度から395億円減少し、2,571億円(前年度比13.3%減)となりました。

利益面では、売上高の減少などにより営業利益は74億円(同43.7%減)に留まりました。営業外収支は支払利息の削減など前年度から改善したものの、経常利益は66億円(同43.8%減)、親会社株主に帰属する当期純利益は53億円(同55.6%減)となりました。

セグメント別の概況について

ウォッチ事業は「グランドセイコー」、「セイコーアストロン」、「セイコー プロスペックス」等のグ

ローバルブランドを中心に、日本・欧米・アジア市場で積極的なマーケティング活動を行いました。

しかしながら、完成品では、国内におけるインバウンド需要の後退や個人消費の低迷、海外は円高に加えて米国市場におけるデパート流通の落ち込みの影響を受けました。ウォッチムーブメントの外販は、取扱商品の商流変更の影響のほか、米国・中国市場の低迷により前年度から大きく落ち込みました。この結果、売上高・営業利益ともに、中期経営計画初年度の計画に対して未達に終わりました。

こうした厳しい損益状況の中でもブランド価値向上への投資は削減せず「2020年に向けてSEIKOを真のグローバルブランドに成長させ、世界の時計市場においてリーディングカンパニーとなること」を目標に、今後の成長に向けた投資

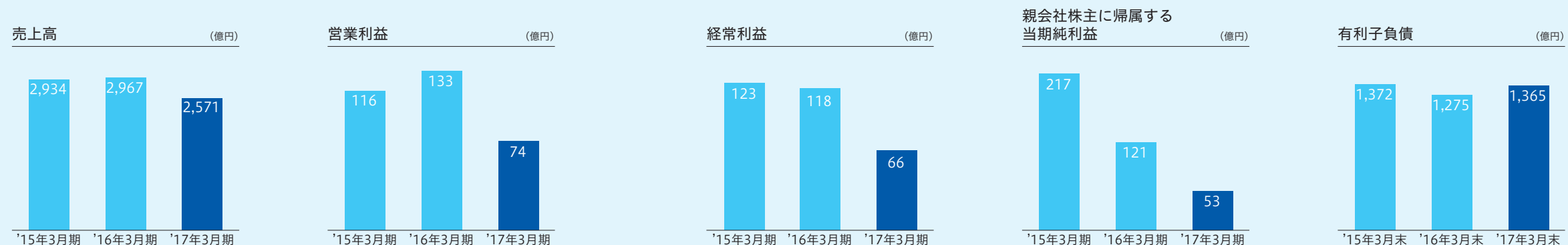
を続けてまいります。昨年度は米国・マイアミ、フランス・リヨン、中国・北京、広州などにセイコーブティックをオープンいたしました。そして3月には、国際時計宝飾見本市・バーゼルワールドにおいて「グランドセイコー」の独立ブランド化を発表いたしました。



バーゼルワールド2017 グランドセイコースタンド

決算ハイライト

Financial Highlights





電子デバイス事業は、売上高は円高の影響もあり減収となったものの、コアビジネスへの経営資源の重点配分や、不採算事業の整理・改善が進んだことから、営業利益は中期経営計画初年度の計画を上回る結果となりました。

なお2018年1月以降、(株)日本政策投資銀行と共同出資で半導体事業を行うエスアイアイ・セミコンダクタ(株)が、持分法適用会社になることが見込まれております。事業再編を踏まえた次の主力事業の確立を急務の課題として取り組んでまいります。

システムソリューション事業は、決済関連ビジネスを中心としたデータサービス事業やホームセキュリティ向けのモバイルソリューション事業などが好調に推移しました。利益を重視した事業運営の浸透や組織再編の完了に伴う経営合理化の進展もあり、売上高・営業利益ともに中期経営計画初年度の計画を上回る結果となりました。

その他に含まれる事業は、クロック事業は国内向け販売を中心に堅調に推移したものの、和光事業と設備時計事業は収益力の安定に課題が残り、事業全体としては売上高・営業利益ともに中期経営計画初年度の計画を下回る結果となりました。

TOPICS

2017年4月3日、セイコーソリューションズ(株)が、コンピュータ性能管理ソフト国内最大手の(株)アイ・アイ・エムを子会社化しました。本格的なIoT時代の到来で情報通信量の飛躍的な増大が見込まれる中で、性能管理ソフトは大きな成長が期待できる分野です。アイ・アイ・エムが加わることで、事業ポートフォリオが厚みを増し、安定的な収益を創出するストックビジネスが拡大します。事業の成長に向けた大きな施策の一つとして、業容拡大と拡販を進めてまいります。

経営基盤の強化について

コーポレートコミュニケーションの強化においては、中長期に亘るブランド価値向上の取り組みの成果が出始め、ブランドイメージ調査『ブランドジャパン2017』において、ビジネス市場(BtoB)編で前回の500ブランド中72位から、17位へと大きく躍進しました。時計・宝飾分野では、コンシューマー市場(BtoC)編、ビジネス市場(BtoB)編の両方で1位となりました。今後もブランド力強化に継続して取り組み、ビジネス拡大につなげてまいります。

また、株主・投資家の皆さまにグループの経営状況や事業戦略をご理解いただけるよう、投資家向け決算説明会などさまざまな機会を通じ、建設的な対話の継続、強化に努めてまいります。

資本・財務政策においては、自己資本比率は29.8%と向上しましたが、中期経営計画最終年度の目標値である35%に向けてさらなる改善を図ってまいります。また、ネット有利子負債は1,012億円となり、最終年度の目標値である750億円に向けて一層の削減努力を進めてまいります。

コーポレートガバナンスについては、役員業績連動報酬制度の導入や独立社外役員を中心としたコーポレートガバナンス委員会の設置など、体制の強化に努めております。

組織・グループ機能の強化の面では、持株会社としてグループの経営方針の策定や戦略の実行を主導し、事業会社へのサポート強化に取り組むこ



証券アナリスト・機関投資家向け決算説明会

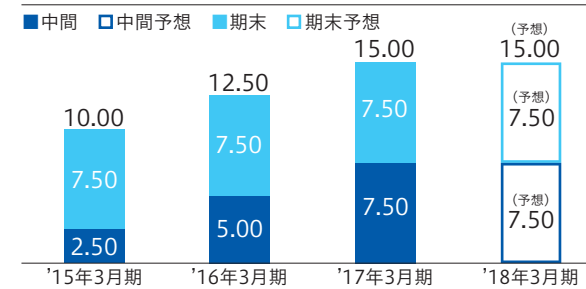
とにより、課題事業の収益性改善やグループ内の機能統合などを推進しております。

多様な人材の育成については、グローバル人材や次世代を担う幹部候補生の育成とともに、女性活躍推進へのさらなる施策を積極的に進めてまいります。

株主還元について

株主の皆さまへの還元については、グループの連結業績をベースに、経営基盤強化のための内部留保の充実に配慮しつつ、長期的な観点から継続的・安定的な配当を実施することを基本方針としております。この方針に基づき、当期につきましては1株当たり15円の配当(中間配当7.5円、期末配当7.5円)とさせていただきます。

1株当たり配当金 (円)



※'18年3月期は株式併合(2017年10月1日付)の考慮前のものです。株式併合後の実際の期末配当は1株につき37.5円の予定です。

GS 独立ブランド化

さらなる高みをめざして グランドセイコー 独立ブランド化

グランドセイコー(GS)は1960年の誕生以来、最先端の技術と最高レベルの匠の技を融合した高精度、そして時計の本質を追求し細部まで研ぎ澄まされたデザインによって、セイコーのラインアップにおける最高峰として歩みを続けてきました。

2017年、グランドセイコーはセイコーと異なる別の高みをめざし、独立したブランドとして展開することで、世界の高級品市場におけるリーディングブランドとしてのアイデンティティを確立してまいります。

これまでビジネスシーンが中心だったデザイン領域を、ダイバーズウォッチをはじめとする本格スポーツと、レディースが牽引するエレガントウォッチの両面で拡大を進め、より幅広い層のお客様から愛されるブランドをめざしていきます。



Elegant



Standard



Sports

独立ブランド化の象徴として、プロダクトのダイヤルからSEIKOのロゴが外れ、GSのロゴが12時に位置するデザインに変更しています。各種コミュニケーションや店頭では、ネイビーとシルバーを基調としたものに順次変更しています。

また、この新しいブランド戦略に連動して、グランドセイコーの保証期間をこれまでの2年から3年に延長しました。



企業価値向上に向けた取り組み

働き方改革について

取り組み 女性活躍推進への取り組み

セイコーホールディングスグループの女性活躍推進への取り組みは、2013年度に始まり、今年で5年目を迎えます。2014年度からはグループの横断的な組織として、各社の経営層から構成される「女性活躍推進委員会」と各社の人事担当者と女性社員を中心として構成される「女性活躍推進プロジェクト」が連動しながら、さまざまな取り組みを継続的に実施してまいりました。主な取り組み内容としては、研修・講演会の開催やグループ内専用サイトからの情報発信、各種制度の導入検討などがあげられます。取り組みを着実に推進してきた結果として、2013年4月1日にグループ全体で5.3%であった女性管理職比率は、2017年4月1日には9.1%まで上昇しました。

2017年度からは、女性の活躍推進に加え、働き方改革として社員全員が活躍できる環境づくりに取り組んでまいります。



取り組み ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて

生産性向上のための取り組みや時間制約のある社員が活躍できる環境づくりは、女性の活躍推進、さらにはダイバーシティを推進するにあたり、重要な課題として捉えています。セイコーホールディングスグループでは、グループ各社で改めて業務の進め方を見直し、業務量の平準化や会議の効率化を図るなど、時間を意識した働き方への改革に取り組んでおります。また、グループ全体では業務の効率化を目的としたセミナーや講演会を開催するなど、社員の意識改革に向けた働きかけを継続的に行ってまいります。

社員一人ひとりが充実感を持ちながら仕事の責任を果たすとともに、仕事と生活の調和がとれた働き方の実現を目指し、働き方改革への取り組みを進めてまいります。



セグメント別情報

ウォッチ事業 51.9%

おもな製品 ウォッチ、ウォッチムーブメント

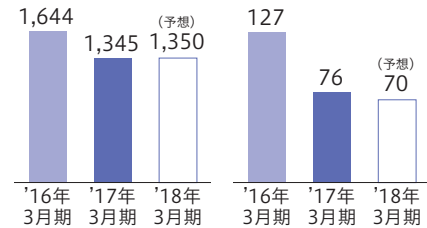
売上高 **1,345**億円 前期比 18.2%減

営業利益 **76**億円 前期比 40.1%減



GPSソーラーウォッチ
セイコー アストロン

売上高 (億円) 営業利益 (億円)



電子デバイス事業 31.1%

おもな製品 半導体、水晶振動子、電池・材料、プリンタ、ハードディスクコンポーネント、カメラ用シャッター

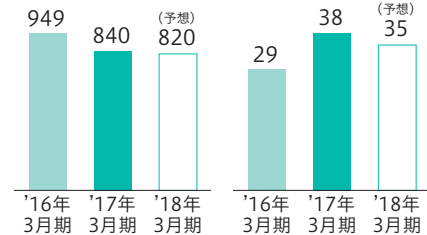
売上高 **840**億円 前期比 11.4%減

営業利益 **38**億円 前期比 30.6%増



半導体製品

売上高 (億円) 営業利益 (億円)



インクジェット
プリントヘッド

システムソリューション事業 7.8%

おもな製品 無線通信機器、情報ネットワークシステム、データサービス

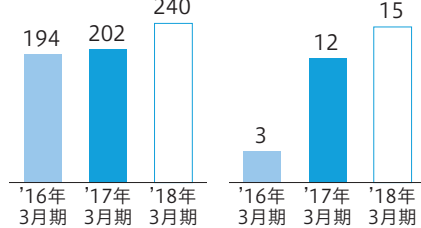
売上高 **202**億円 前期比 4.3%増

営業利益 **12**億円 前期比 252.3%増



無線決済端末
CREPICO
データセンターサービス
高速無線ルーター
決済サービス
ソリューション

売上高 (億円) 営業利益 (億円)



その他 9.2%

おもな製品 クロック、高級宝飾・服飾・雑貨品、設備時計他

売上高 **270**億円 前期比 4.2%減

営業利益 **3**億円 前期比 66.4%減

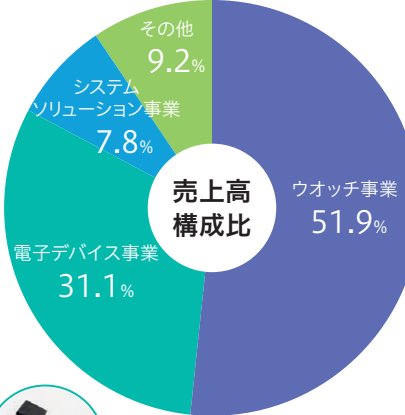
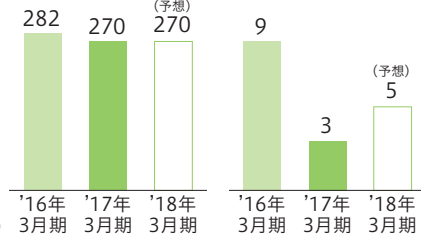


デジタル電波時計
セイコー シリーズC3



和光企画 ハンドバッグ
Sac de Temps(時のバッグ)

売上高 (億円) 営業利益 (億円)



売上高
構成比

連結財務データ

単位：億円未満切り捨て

主な経営成績 (億円)	2012年3月期 (第151期)	2013年3月期 (第152期)	2014年3月期 (第153期)	2015年3月期 (第154期)	2016年3月期 (第155期)	2017年3月期 (第156期)
売上高	2,969	2,837	3,082	2,934	2,967	2,571
営業利益	67	55	140	116	133	74
経常利益	12	32	101	123	118	66
親会社株主に帰属する当期純利益*	△ 110	55	74	217	121	53
純資産	319	408	647	925	1,026	1,071
総資産	3,861	3,553	3,667	3,337	3,291	3,288
営業活動によるキャッシュ・フロー	111	214	155	165	150	42
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 112	△ 20	△ 109	462	△ 83	△ 132
財務活動によるキャッシュ・フロー	3	△ 292	△ 35	△ 668	△ 66	57

*「企業結合に関する会計基準」等の適用に伴い、従来の「当期純利益」は2016年3月期より「親会社株主に帰属する当期純利益」に名称が変更になりました。

1株当たりデータ (円)

純資産	131.65	188.76	304.24	437.52	457.44	476.10
当期純利益	△ 60.25	29.41	35.92	105.39	58.76	26.14
配当金	0	2.50	5.00	10.00	12.50	15.00

主な指標

自己資本比率 (%)	6.2	11.0	17.1	27.1	28.7	29.8
ROA(総資産経常利益率/%)	0.3	0.9	2.8	3.5	3.6	2.0
ROE(自己資本当期純利益率/%)	△ 36.0	17.5	14.6	28.4	13.1	5.6
PER(株価収益率/倍)	△ 3.3	14.3	11.4	5.8	7.6	17.4
配当性向 (%)	—	8.5	13.9	9.5	21.3	57.4

→財務データに関する詳細な情報は当社ホームページよりご覧いただけます。 <http://www.seiko.co.jp/ir/financial/index.html>

単元株式数の変更および株式併合についてのご案内

全国証券取引所は「売買単位の集約に向けた行動計画」を発表し、全ての国内上場会社の普通株式の売買単位を100株に統一することを目指しております。当社は、東京証券取引所に上場する企業としてこの趣旨を尊重し、当社株式の売買単位である単元株式数を現在の1,000株から100株に変更いたします。また、証券取引所が望ましいとする投資単位の水準(5万円以上50万円未満)を維持することを目的として、5株を1株とする株式併合をあわせて実施いたします。なお、この単元株式数の変更および株式併合に伴う株主様による特段のお手続きの必要はございません。

単元株式数の変更

1,000株から100株に変更

単元株式数とは、株主総会における議決権の単位であり、証券取引所における売買の単位となる株式数です。

株式併合

5株を1株に併合

株式併合とは、複数の株式をあわせてそれより少ない数の株式にすることです。株式併合により、ご所有の当社株式数は5分の1となりますが、1株当たりの資産価値は5倍となります。

例 効力発生日前に1,000株をお持ちの株主様

	2017年9月30日	2017年10月1日
所有株式数	1,000株	200株
単元・議決権数	1個	2個

Q & A 単元株式数の変更および株式併合に関するQ & A

Q 株式併合により所有株式数が減少しますが、資産価値や受け取る配当金に影響はありますか。

A 株式併合の前後で会社の資産や資本は変わらないため、株式市況の変動など他の要因を別にすれば、株主様ご所有の当社株式の資産価値が変わることはありません。配当金につきましては、併合割合を勘案して1株当たりの金額を設定させていただく予定ですので、業績変動など他の要因を別にすれば、株式併合を理由に配当金の総額が変動することはありません。

Q 株式併合の結果、1株に満たない端数株式が生じた場合はどうなりますか。

A 端数株式が生じた場合は、全ての端数株式を当社が一括して処分し、その代金を各株主様の有する端数の割合に応じてお支払いいたします。また、株式併合の効力発生前に、単元未満株式の買取りまたは買増し制度をご利用いただくことにより、端数株式の処分を受けないようにすることが可能です。※具体的なお手続きについては、お取引の証券会社または後記の当社株主名簿管理人にお問い合わせください。

会社情報

会社概要

社名	セイコーホールディングス株式会社
創業	1881年(明治14年)
資本金	100億円
従業員数	144名(単体) 13,065名(連結)
本店所在地	〒104-8129 東京都中央区銀座四丁目5番11号
本社所在地	〒104-8110 東京都中央区銀座一丁目26番1号 電話：03-3563-2111(代表)

WEBサイト <http://www.seiko.co.jp>

役員 (2017年6月29日現在)

代表取締役会長 兼 グループCEO	服部 真二
代表取締役社長	中村 吉伸
常務取締役	大熊 右泰
取締役	金川 宏美
取締役	瀧沢 観
取締役	高橋 修司
取締役	内藤 昭男
取締役	石井 俊太郎
取締役	カーステン・フィッシャー ^{*1}
取締役	遠藤 信博 ^{*1}
常勤監査役	三上 誠一
常勤監査役	高木 晴彦
監査役	山内 悦嗣 ^{*2}
監査役	青木 芳郎 ^{*2}
監査役	浅野 友靖 ^{*2}

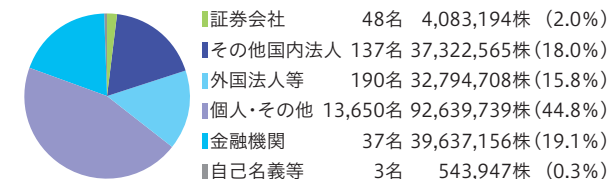
^{*1} 社外取締役
^{*2} 社外監査役

株式情報

株式の状況

発行可能株式総数	746,000,000株
発行済株式の総数	207,021,309株
株主数	14,065名

株式所有者別の状況



※自己名義等は、自己名義株式(286,538株)および当社関係会社が所有する株式です。

株主メモ

証券コード	8050
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第一部
決算基準日	3月31日
配当支払株主確定日	期末配当 3月31日 中間配当 9月30日
株主名簿管理人および特別口座管理機関	みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
郵送物送付先 お問い合わせ先	みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 電話：0120-288-324(フリーダイヤル)
公告の方法	電子公告 ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は日本経済新聞に掲載して行います。

TOPICS

「わ」で奏でる東日本応援コンサート2017 in 東京」を主催

東日本大震災から6年を迎えた3月11日、東京都渋谷区のBunkamuraオーチャードホールにて「わ」で奏でる東日本応援コンサート2017 in 東京」を主催しました。

セイコーは、震災直後より、被災地での復興支援コンサートを継続して行っています。「わ」で奏でる東日本応援コンサート」は、復興に向け、音楽の力を通して被災地の皆さんと支援者の心をつなぐ場として、今回で通算24回目の開催を迎えました。

「わ」の絆を広げるために、今年はハート型のメッセージカードに、被災地の皆さんの思いと、支援者からの応援の言葉を書き込んでいただき、コンサート会場のステージや和光のショーウィンドウに飾りました。

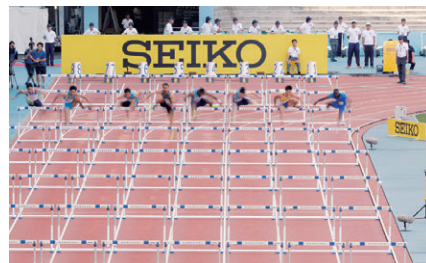


「セイコーゴールデングランプリ陸上2017川崎」を特別協賛

5月21日、セイコーが特別協賛しオフィシャルタイマーを務める「セイコーゴールデングランプリ陸上2017川崎」が、神奈川県川崎市の等々力陸上競技場で開催されました。

本大会は、世界陸上の代表選手選考会を兼ねており、世界のトップアスリートと日本選手との熱い戦いが繰り広げられました。

セイコータイミングチームが、最新の計時・計測システムの提供で競技運営をサポートしました。8月4日(金)から13日(日)には、英国・ロンドンで開催されるIAAF世界陸上2017ロンドンのオフィシャルタイマーを担当します。



写真：アフロススポーツ

年間IRカレンダー

第2 四半期			第3 四半期			第4 四半期			第1 四半期		
7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
	第1四半期決算発表 四半期報告書提出			第2四半期決算発表 四半期報告書提出			第3四半期決算発表 四半期報告書提出			決算発表	定時株主総会 有価証券報告書提出

セイコーホールディングス株式会社

〒104-8110 東京都中央区銀座一丁目26番1号
電話 03-3563-2111 (代表)

